

1 年

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○学年で情報交換を行い、生徒指導や保護者対応を行うことができた。</p> <p>○不登校生徒に対して、家庭訪問や電話連絡など、担任を中心にチームで対応することができた。</p> <p>○集会など、静かにしなくてはいけない場面では、正しい行動ができるようになった。</p> <p>○部活動へは多くの生徒が前向きに取り組んでいる。</p> <p>△あいさつや時間を守るなどの基本的な生活習慣は概ね定着していると思われるが、できていない部分もある。</p> <p>◆人や物に対して配慮に欠ける行動がいまだに多い。</p>
2 学習指導全般	<p>○多くの生徒は、概ね落ち着いて学習に取り組むことができた。</p> <p>○推進委員と連携して授業に臨む準備を意識する指導ができた。</p> <p>○学習コンテストに取り組み、学習に自信を持った生徒が見られた。</p> <p>△学習に対する基本的な読み取り、記述の力が不足している生徒が見られる。</p> <p>△提出物が遅れる生徒が一部見られる。</p>
3 特別活動全般	<p>○前期、後期とも推進委員を含め、生徒達は学年のことを考え、積極的、前向きな発言で様々なアイデアを出し取り組むことができた。行事を通してリーダーが積極的に引っ張って行こうとする様子が見られた。</p> <p>△（上記の反面）リーダー以外の生徒が取り組みに対して協力的でなかったり、取り組むまでに時間がかかるなどあった。</p> <p>△推進委員はお手本となる態度で生活できてはいるが、声をかけ、周りを巻き込んで良い方向へ導く影響力が足りていない。</p> <p>○基本的には計画的に特別活動をすすめることができた。</p>

3 学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人に優しく、物にも優しく」をテーマに、集団として周りに配慮できる行動をとれるように声掛けをしていく。 ・TPOに応じた行動ができるように指導を継続していく。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物を徹底するために、担任、教科担任が連携して個別に声かけをしていく。 ・記述することが苦手な生徒の対策としてワークシートの工夫をしていく。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事が少なくなる3学期以降もリーダーとしての自覚をもたせ、積極的に活動できるようにしていく。生徒だけの活動にならないためにも、学年の教師と共に合わせて声掛けなどしていく。リーダー以外の生徒も巻き込んだ活動ができることを目指す。

2 年

2学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○相手の思いを聴くことや認めることができる生徒は1学期より増えてきている。</p> <p>▲今年度の目標である自らの想いを伝える部分においては、1学期と変わらない評価に留まってしまった。</p> <p>▲授業準備はできつつあるものの、落ち着いてチャイムを聴くことはできていない。</p>
2 学習指導全般	<p>○ほとんどの生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>○学習コンテストに前向きに取り組む生徒が多く見られた。生徒の「努力すれば良い結果につながる」という自己肯定感を高めることができた。</p> <p>○忘れないゾウに今日の課題（宿題など）を書くことや、テスト計画表の取り組みによって、学習の見通しを持つ生徒が増えてきた。（生徒アンケート6ポイント上昇）さらに、自学ノートカレンダーとの連携も継続していきたい。</p> <p>▲家庭での学習時間が30分～2時間の生徒が76%である。毎日1時間程度できるようにする指導する必要がある。</p> <p>▲基礎基本が身につけていない生徒に対して、これからも継続的に個別を支援を行う必要がある。</p>
3 特別活動全般	<p>○学校行事で、リーダーが積極的に引っ張って行こうとする様子が見られた。また、その声に応えようとする様子が多く見られた。</p> <p>○推進委員が学級や学年全体の現状から必要な課題を考え、改善するための企画を実践できている。</p> <p>▲推進委員はお手本となる態度で生活できてはいるが、声をかけ、周りを巻き込んで良い方向へ導く影響力が足りていない。</p> <p>▲新たなリーダー、フォロワーが育ってきていない。</p>

3学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期に引き続き、様々な場面で聴く姿勢と視線、さらに自らの想いを自らの言葉で伝えることを意識させていきたい。 ・授業という時間を大切にするためにも、3学期もチャイムを静かに聴くこと（心と頭と道具の準備）を意識させる。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣をつけるために、終礼時に家庭学習の見通しを考える機会を設定したり、毎日の自学ノートカレンダーの活用を進めたり、テスト前に自学ノート強化週間を設定したりするなどして、自分で学習をコントロールできるように指導する。 ・基礎基本の定着のために、睡眠時間の確保、学習コンテスト、自学ノート強化週間の指導で自分で自分を成長させることができるような改善を目指したい。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進から声掛けや色々な人に協力を要請するなど、学級全体だけでなく、個別にも積極的に関わっていくように指導する。 ・推進以外の生徒が活躍できる場を設けていく。

2学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○「学校のルールや社会のマナーを意識して過ごしている。」の項目は中間期より上昇している。実際に、学校生活は落ち着いている。</p> <p>○「学校に悩みを相談する先生や大人がいる。」についても昨年度や本年度の中間期より微増している。少しずつではあるが生徒と良好な関係が構築できていると感じる。</p> <p>▲「自分からあいさつしている」についてはかなり高い数値ではあるが、双方向のコミュニケーションになっているかといえば今一つである。</p> <p>▲落ち着いてきてはいるものの、自ら時間を意識して生活できている生徒は多くなく、教員側からきっかけがないと行動に移せない生徒が少なくない。</p>
2 学習指導全般	<p>○「授業のルールを守って授業に参加している」の項目には、半数の生徒が「よくあてはまる」と回答した。実際に、授業は落ち着いている。</p> <p>○道徳の授業における学びの深まりや、質問に対する理由や根拠をつけた説明の項目は、約10ポイント上昇した。</p> <p>○2学期からは本格的な受験勉強期に入ったことで、家庭学習の時間は1学期と比べ大幅に伸びた。</p> <p>▲数値としては伸びたが、しっかりと計画を立てて家庭学習に取り組む生徒は未だに少ない。受験本番までの残りの日数を意識させ、限りある時間を有効に使えるよう意識を高めさせたい。</p> <p>▲平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は、未だ半数である。進路面談等を活用し、個別に指導を行う必要がある。</p>
3 特別活動全般	<p>○「自分にはよいところがある」と思っている生徒が中間評価より微増している。</p> <p>○運動会や合唱コンクールをきっかけに、新たにリーダーに挑戦する生徒が増え、見事やり遂げていた。リーダーだけでなく、三学年全体が最上級生であるという自覚を持って主体的に活動に参加し、達成感を得られる結果であった。</p> <p>▲「生徒会活動（委員会や学級会）に関心を持ち、進んで参加している」生徒が微減しているように、学校行事での活躍や成長が普段の学校生活に活かされていない。</p>

3学期以降の重点指導項目

〈生活〉

- ・進路が決定する時期が人によって異なるため、より一層、生徒の相手を思いやった言動を数多く見つけ、認めることを教師側が心掛ける。
- ・時間を意識させるために、教員が早めに教室に向かい授業への準備をすることで生徒への気づきを与えたい。

〈学習〉

- ・全体指導（集会、朝終礼）と個別指導（個人面談）のハイブリッドで、家庭学習の量・質の充実および向上をはかる。
- ・受験に向けた問題演習が徐々に多くなるが、授業では学びの深まりを意識した発問や理由や根拠を自分の言葉で粘り強く説明させる活動を、引き続き多く取り入れたい。

〈特活〉

- ・推進委員会の取り組みを中心に、学校や級友の良さ、自分の良さに気づき、互いに認め合える場面を設けることで、高め合える雰囲気構築していく。

教務部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果</p>	<p>【教職員】 ※いずれも肯定的評価の数値。 () 内はR 5 中間、【 】はR 4 年間評価の数値 (1) 本年度の重点目標を意識して、学校経営に参画している。 ……91% (91%) 【84%】 (2) 各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している。 ……93% (93%) 【82%】 (5) 最終退校時刻（19：30）を意識して、業務に取り組んでいる。 ……79% (80%) 【81%】 重点目標、会議の有効性に関しては年内では変化なし、経年比較で7%の伸びを示した。最終退校時刻は大きな変化なし。</p> <p>【生徒】 (1) 学校が楽しい。 ……85% (83%) 【85%】 内訳 1年 81(82) 【86】% 2年 83(82) 【82】% 3年 90(87) 【88】% (19) 学校からのお知らせや各種たよりを確実に保護者に渡している。 ……78% (80%) 【77%】 内訳 1年 75(84) 【75】% 2年 76(79) 【74】% 3年 82(76) 【81】% 「学校が楽しい」に関しては微増 「おたより」に関しては減少傾向にある。</p> <p>【保護者】 (1) お子さんは安心して学校生活を送っている ……90% (94%) 【94%】 内訳 1年 88(94) 【94】% 2年 87(93) 【94】% 3年 95(94) 【94】% (8) 各種たより、ホームページ、PTA 行事などから学校の様子がわかる。 ……81% (80%) 【81%】 内訳 1年 81(83) 【80】% 2年 78(78) 【77】% 3年 86(78) 【88】% 「学校が安心」に関しては減少傾向にある。経年では90%前半で推移 中間評価に比べ生徒アンケートとの整合性も見られる。(5%差) 「おたより」に関しては微増、3年生は大きく向上。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【重点目標】・【会議の有効性】 会議はクロムブックを使うことで時間短縮と効率アップができた。それによって重点目標を確認する時間の確保が図れている。</p> <p>【楽しい・安心】 生徒は微増だが、保護者は1・2年生で共に6%下降している。生徒と保護者の回答の差が少なくなったことから、否定的な意見を書いた理由を推察し確認していく必要がある。</p> <p>【情報発信】 経年比較でも変化がほとんどない。生徒からも大切なお知らせはメールにしてほしいという意見もあった。検討が必要</p> <p>【最終退校時刻】 肯定的評価の値が80%からほとんど変化していないことが課題である。</p>

<p>3 学期以降の重点項目</p>	
<p>○今年度の振り返りを十分に活用し、来年度会議で諮る必要のある項目を明確にしておく。それによって重点項目を確認する時間の確保、会議の有効性が向上する。</p> <p>○学校生活で「何が不安で楽しくないと感じるか？」ということを実教職員で共有し、未然防止の指導を徹底していく。</p> <p>○「メールで案内するお知らせを何にするのか」ということを決定しておく。</p> <p>○年度末振り返りを参考にし、行事への取り組み方を見直し業務改善としていく。</p>	

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果</p>	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のルールや聴く、姿勢など授業規律に関する項目は前年度より+5%で上昇している。 ・「分かりやすい授業となる工夫や改善をしている」という項目は前年度比-5%であるが95%の先生が肯定的回答をしており、授業改善への意識は引き続き高い。 ・家庭学習に関する項目は前年度比+3%であるが低い水準のままである。 ・根拠や理由を加えて表現する指導に関する項目では、前年比+5%である。 <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の面では4年間90%肯定的意見と高い水準で推移している。 ・「計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の項目では中間評価+4%であるが、前年度-2%である。 ・「平日一日あたりの家庭学習時間」の項目では学年により数値のばらつきが大きい。 ・道徳の授業の項目では数値が9割弱で安定している。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の面で9割を切っている。また、家庭学習の習慣がついているという項目でも数値の低下が見られる。
<p>成果と課題</p>	<p>【学習指導】</p> <p>○認める・認め合う活動の活性化により、主体的に授業に参加できるようになってきている。</p> <p>▲授業のルールについて、生徒との共有が必要である。</p> <p>▲家庭学習の取り組みについて、1・2年生は自学ノートの使い方についてモデルを示すことが重要である。また、授業内で「これだけは」というポイントを伝え、そのポイントを定着させるための課題を自学ノートにするよう指示する等、どの学習レベルにいる子にも届くよう工夫が必要。→自学ノートの活用法をレベル分けなどして具体的に「こうする」を学年毎に提案する。</p> <p>▲計画を立てて学習を進めていくことについて、自学カレンダー・忘れないゾウで毎日の計画をたてることを徹底する。また、定期テスト時の計画表を確実に書かせる。</p> <p>▲家庭学習時間を増やす取り組みを各学年で実施する。</p> <p>【キャリア教育】</p> <p>○事業所体験を行ったことで、2年生は将来の職業について考える機会を多く得ることができた。</p> <p>▲事業所体験はその実施にあたって教員の負担が大きくなり、本年と同程度の活動を行うのであれば、様々な再検討を行う必要がある。</p> <p>【道徳・人権教育】</p> <p>○学校評価アンケート（生徒）の「道徳の授業で自分の考えを持ち、他の生徒の意見を聞いて考えが深まったことがあった。」の数値が86%となっており、道徳科の授業における学び合いの充実がうかがえる。</p> <p>▲授業づくりや評価に関して検討する場を設定する必要がある。</p> <p>【情報教育】</p> <p>○全員にクロムブック保護バッグを購入または持参させ、日中は机の横に提げることとした。その結果、端末準備にかかっていた時間が短縮でき、授業や各種アンケート等における短時間の使用を含め活用頻度が増加した。</p> <p>○昨年度までの大きな課題であったクロムブック使用上のルールを整備した結果、学校全体としてルール違反の件数は大きく減少し、端末を正しく使う生徒の数が増えた。</p> <p>○ICTの活用方法を職員間で研修したり、日常的に使用実践を共有したりすることで、授業および業務全般における効果的なICT活用の促進につながった。</p> <p>▲生徒のICT活用スキル向上。そのためには、全教職員のICT活用スキル向上が不可欠である。→活用チェックリストの作成および自己評価の実施。校内研修内容の選定に生かす。</p> <p>【図書館教育】</p> <p>○総合的な学習で、「野っ中図書館クラスルーム」のリンクまとめ（金沢研修、上級学校）を活用してもらったり、個人別課題解決学習レポートの課題の情報をGoogleフォームで集め、課題に必要な図書資料を準備したりすることができた。</p> <p>▲学校評価アンケート（生徒）の「読書が好きである」の数値が67%で、昨年度より6ポイント低下、貸出冊数も減少した。（2023年4～12月：9,188冊、2022年同期間：10,906冊）</p>

3学期以降の重点項目

- ・自学ノートカレンダー・忘れないゾウを活用し、その日の計画を立てられるよう指導する。
- ・授業のルールを学校全体・学級で共有し、守るべきルールと心構えを意識できるようにする。
- ・授業でICTのみではなく図書資料とのハイブリッドな利用を目指す。

生徒指導部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果 より</p>	<p>※数値は肯定的回答，（）内は昨年度の数値</p> <p>【生活規律】 T「生徒はルールや決まりを守って学校生活を送っている」 67% D(75%) S「学校のルールや社会のマナーを意識して，過ごしている」 92% A(94%)</p> <p>【あいさつ】 T「生徒は，自分から挨拶や会釈ができる。」 44% D(34%) S「自分から挨拶をしている。」 79% C(81%) P「お子さんは，自分から挨拶を心がけて行っている」 76% C(77%)</p> <p>【対応・相談】 T「不登校の生徒に対する指導が組織的・効果的に行われている」 85% B(85%) T「生徒理解に努め，生徒や保護者に寄り添った声かけや対応を行っている」 98% A(100%) S「学校には，悩みを相談する先生や大人がいる」 62% D(61%) P「学校は，保護者からの連絡や相談に誠実に対応している」 93% A(95%)</p> <p>【自問清掃】 T「自問清掃は，生徒の自主性・自発性の育成につながっている」 24% D(52%) S「自問清掃をねらいにそって取り組んでいる」 78% C(78%)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【生活規律】 △生徒はルールや決まりについて意識はしているが，教員から見るとルールを守っているとは言えない状態である。 ○生徒会による校則の見直しのための取組を実施し，いくつかの項目の見直しをした。これからは生徒が自分たちで決めたルールを自分たちで守っていくことを支えていきたい。</p> <p>【あいさつ】 △クラスごとの朝の挨拶運動などの取組を行っているが，その様子は進んでやっているものとは言い難い。自ら進んで挨拶をすることを念頭に置いた取組の実施が求められる。</p> <p>【対応・相談】 ○生徒や保護者に寄り添った声かけや対応は高い数値である。生徒や保護者とやり取りを密にしている。 △一方でやり取りの多さで通常業務に支障が出ているケースがある。 ○スクールカウンセラーの勤務日や利用方法を生徒に周知する掲示物を保健室前に作成。掲示物の前には，図書館司書が選んだ相談に関する本も置いた。</p> <p>【自問教育】 ×職員の自問清掃に関する項目で，数値の低下が著しい。自問清掃の目的や方法がわからなくなっており，形骸化していると言えない状態である。</p>

<p>3学期以降の重点項目</p>	
<p>【生活規律】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分たちで改訂した校則を，自分たちで守っていけるような取組の実施。 ・守られていないルールについて，守られていない理由とその改善策を考えていくための生徒主体の取組の検討。（例：ルールを守るための呼びかけ，実態に合わないルールを見直す取組） <p>【あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる挨拶運動ではなく，生徒会や委員会による“自ら進んで”あいさつをするための取組の計画・実施。特活と生徒指導部の連携。 <p>【対応・相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任ではない教員も不登校・不登校傾向生徒の対応をする仕組みづくり。 ・スクールカウンセラーの勤務日や利用方法を定期的に，様々な方法で生徒・保護者に周知する。（掲示物，プリント…等） <p>【自問清掃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自問清掃の目的や方法を教員，生徒が学ぶための機会を年度当初に設定する。そのための計画，立案を3学期のうちに行う。

特別活動部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果</p>	<p>【満足】 S 「学校が楽しい。」 85% B P 「お子さんは、安心して学校生活を送っている。」 90% A</p> <p>【行事等の指導の工夫】 T 「生徒が有用感・達成感を得られるように、行事などの指導を工夫している。」 90% A</p> <p>【自治・育成】 S 「将来の夢や目標を持っている」 61% D S 「自分にはよいところがある」 69% D S 「生徒会活動（委員会や学級会）に関心を持ち、進んで参加している」 68% D</p> <p>P 「お子さんは、生活や学習に目標をもって生活をしている」 73% C</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 数値には表れていないが、運動会の取り組みは教職員・生徒ともに充実感を得られたものだったと言える。生徒からの声や振り返りにもその点への記述が多く見られた。 合唱コンクールも素晴らしかった。学年ごとの関わりがなかった点ももったいなかったが、来年度は全学年で行い、さらなる充実を図る。教職員が年間判定Aというのは、行事での充実感が大きいと考えられる。</p> <p>【課題】 生徒・保護者のアンケート結果の結果が芳しくない。 「学校が楽しい。」への肯定的回答が85%（100%が良い）とB判定である一方で、自治・育成の質問への回答はD判定となっている。 学校は楽しいが、将来への展望は持っていない、ということがわかる。 行事での充実感・成就感が日常とは別のこととなっており、日常での特別活動的な取り組みが不足していると考えられる。 生徒の質問項目は、「自らの行為によって自身や環境を変えていくことができる」と本人が思っているかどうか、「自分自身が環境に働きかける主体としての能力を持っていると感じているかどうか」に関わる部分である。すなわち自己効力感を持っていないということである。現在の学校生活においては、生徒の裁量権が少なく、自己決定する場が不足していると考えられる。</p>

3学期以降の重点項目
<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動で学級会などで集団決定させる場を設ける。 ・同じく学級活動でどのような自分になりたいかを自分でイメージし、目標を設定し、日々の学校生活を過ごすなど、自己イメージを持たせる場を学級活動で設ける。特活部から提案していく。